★本の大きさについて★

半は半紙判、洋装本の菊判（A5）に相當するもの。中とあるは美濃半截、洋装の四六判(B6)に相當。小は半紙半截以下のもの。大は美濃判、又はそれ以上の大形本。横は横綴本を指し、三ッ切は美濃判や半紙判を横に三っつに截ったものを指します。

001　ふくざつしよ　　中１册　品切れ

=菱川師宣画　貞享四年／卯ノ正月吉日／板元（紋）江戸／鱗形屋孫兵衛

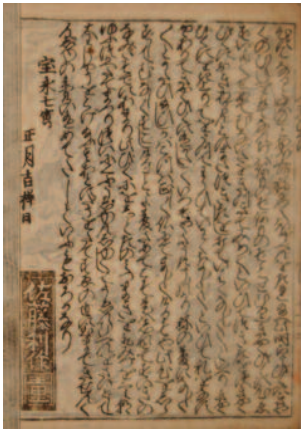
刊語に「右此ふくざつ志よハ阿部清明家傳之秘書～」

全 15 丁存すが表紙と裏表紙を欠逸。未補修傳來のまま。書名の『ふくざつしよ』は『福雑書』とするらしく『大雑書』のパロディーであろうか。

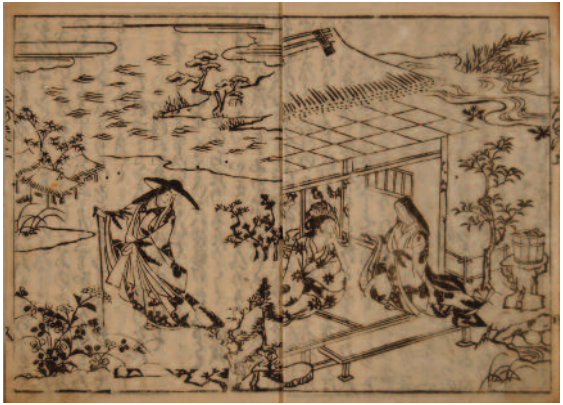
福運の來たるを記した書物の意で占いのおみくじの見本帖のような作品。當時、神社佛閣でおみくじを出す事が流行しはじめたことを示すものであると云う。

巻首に見開きの口繪と各丁５圖づつ全巻 130 圖の人物を描き當時の風俗を自ら浮かび來たる。それら全て無署名ながら師宣の筆たることが古來から定評または確實とされている名品である。帙入。

002　繪入　二人比丘尼　上下巻　　宝永七寅正月吉祥日　　中２册　品切れ

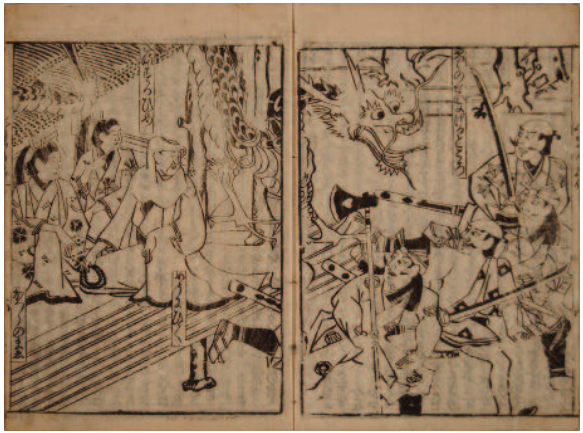


=黒表紙。原表紙、原題簽附。版心「二人ひくに」。插繪は各巻四圖づつ合計八圖。やや後摺ながらも原題簽を備える美本。丁數、上巻「一」「二」「三」「四」「五」「六」「六七」「八」「九十」「十」。
下巻「一」「二」「三」「四五」「五」「六」「七」「八九」「九」「十」「十一ノ二」。帙入。3ページ参照。



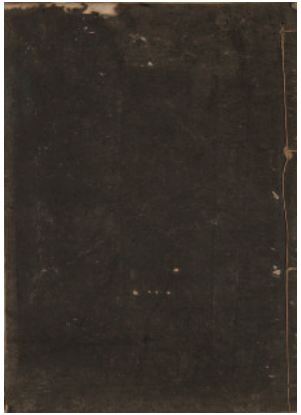
003　くまがゑ　　享保九年正月吉日　　中１册　品切れ

=古淨瑠璃・説教本。黒表紙。う路こがたや孫兵衛。原表紙、題簽欠。美本。
版心「くまかえ」。巻首内題の「熊谷次郎」は舊藏者佐藤利作の肉筆（墨書）。插繪は三圖。やや後摺の爲、文章不鮮明の箇所が所々有り。
丁數「壱」「二」「三」「三」「四」「五」「六」「七」「八九」「十」「十一」（第三丁はだぶり」。帙入。5ページ参照。



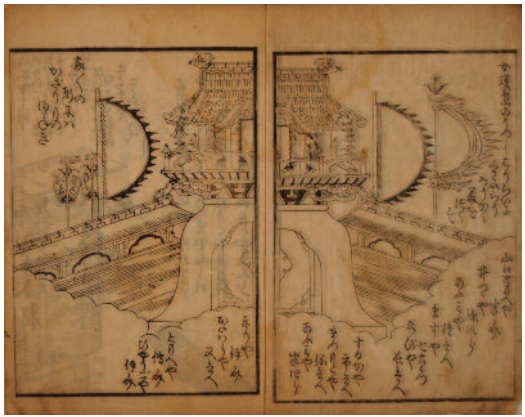
004　切兼曾我　　正徳二年正月吉日　　中１册　品切れ

＝古淨瑠璃。黒表紙。原表紙、題簽欠。美本。少虫。やや後摺りの爲、本文不鮮明の丁有り。插繪は三圖。版心「きり」。丁數ハ整然ト「一」～「十」。帙入。７ページ参照。



005　燈籠番附　青樓夜のにしき　　天明３年頃刊　　中１册　品切れ

=喜多川哥麿画　蔦屋重三郎版　原表紙　模様表紙　もともと題簽は付さない。『國書総目録』に唯一記される関根只誠舊藏の「大東急」本と比較するため閲覧した際のエピソード。本書は第１丁目が重複しています。世田谷區上野毛の大東急記念文庫に伺い閲覧したところ、なんと大東急本は第１丁が欠丁でした。破れて欠丁したような形跡はなく、おそらくは丁合師が誤って入れ忘れたのか。もしかしたらそこに入れるべき丁をこちらにタブって入れてしまったのかもしれません。２書は非常に傳存の少ない本なのに、そんな経緯のある２書が製本以來 223 年の時を越えて再會したのかもしれません。そのときだぶっている丁を大東急に寄付しようかと迷いましたが、これも運命であろう、餘計なことはするまいとそのまま歸りました。本書には存在しませんが、大東急本には本書の表紙と違って色刷りの元袋のような紙が表紙の代わりに綴じこんでありそこに書名があったので本書がそれと分かったわけです。蔦重が日本橋に移轉する前、新吉原口で開業していたときの刊本で哥麿初期の繪本でもあります。帙入。9 ページ参照。



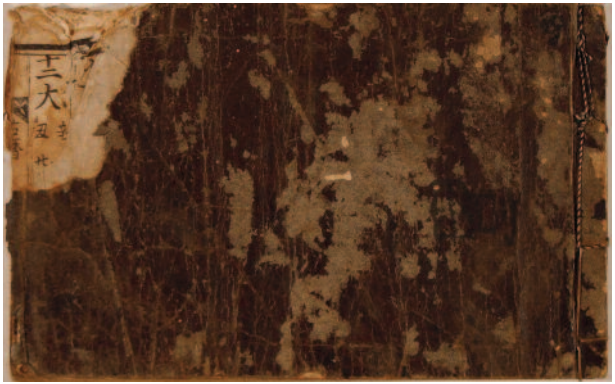
右の丁が重複

画工　喜多川哥麿

版元　新吉原大門口　蔦屋重三郎

006　古　暦　　原装　題簽欠　帙入　寛永８年中刋　　中横１冊　700,000

=著者不明。原装とおもわれる栗皮色表紙。表紙から３丁めまで少破れ若干欠字有り。非常に珍しい孤本と思われるのであえて補修はいたしません。
本書は慶安元年に吉田光由が刋行した『古暦便覧』の自序に紹介された傳説の刋本「古暦」。天文３年から寛永８年まで98年間を記した暦。かつて反町弘文荘の古活字版目録に孤本として元和４年版が掲載された。本書はその飜刻本の整版本で寛永８年刋と推定される。戦前、井本文庫に存在の記録があったが現在は本書が孤本であろう。寛永９年以降、正保４年まで本紙とあまり變わらぬ紙で手書き増補される。しかし下段の八卦の圖は印として押捺されている。11ページ参照。



求祿七甲子年
正小 己 祖正中 十六二節 老五三平二
二小 甲 二二中 戌十七三節
三大 癸 四三中 卯十九四節
四小 癸 四四中 酉十九五節
五大 壬 五五中 寅十六六節
六小 壬 六六中 申十七七節
七大 辛 八七中 丑十三八節
八小 辛 八八中 未十三九節
九大 庚 九九中 子十四十節
十大 庚 十十中 午十五十一節
十一大 庚 十十一中 子十五十二節
十二小 庚 十十二中 午十六正節
同
人
金命
大
有
公十十三四六

慶長元丙申年
正小 己 九正節 老四正中
二大 戊 十二節 老二中
三大 戊 十三節 老一中
四小 戊 十二四節 老七四中
五大 丁 十三五節 卯八五中
六小 丁 十三六節 酉九六中
七大 丙 十五七節 未十五八節
八大 乙 十七八中 丑二九節
九小 乙 二九中 未十七十節
十大 甲 三十中 子十九十一節
十一小 甲 四十中 午十九十二節
十二大 癸 五十二中 亥老正節
同
人
火命
大
有
公十十正四六

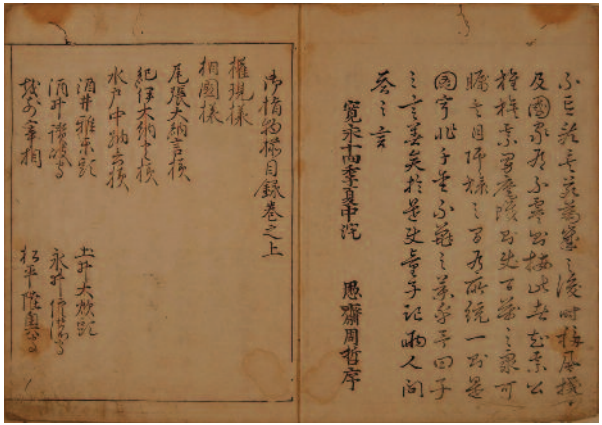
寛永八未年
正大 乙 七正節
二大 丙 八正中節
三大 丁 九二節
四小 丁 十四節
五大 戊 十五中節
六小 戊 十六中節
七大 己 十八中節
八小 己 十八中節
九小 庚 十九中節
十大 辛 二十節
十一小 辛 二十節
十二大 壬 二十一節
昭
土命
觀
四八十二

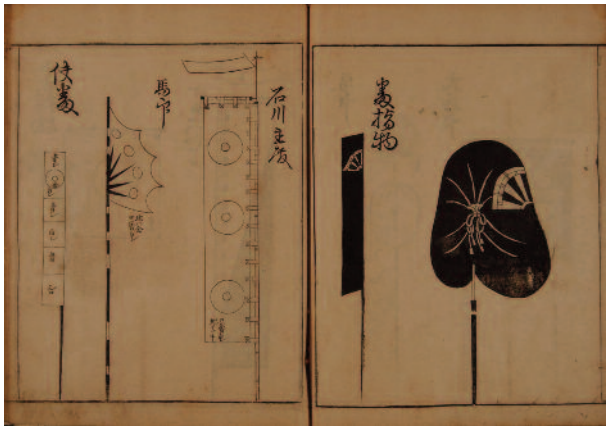
正保四丁亥年
正大 戊 三正節
二小 癸 三二節
三大 壬 五三節
四小 壬 五五節
五大 辛 六五節
六小 辛 七六月
七小 庚 八五秋
八小 己 十八節
九大 戊 十九節
十大 戊 十九節
十一小 丁 十一節
十二大 丁 十一節
震
土命
艮
大田
六間十
水中
非大
艮
巽
吸樣記

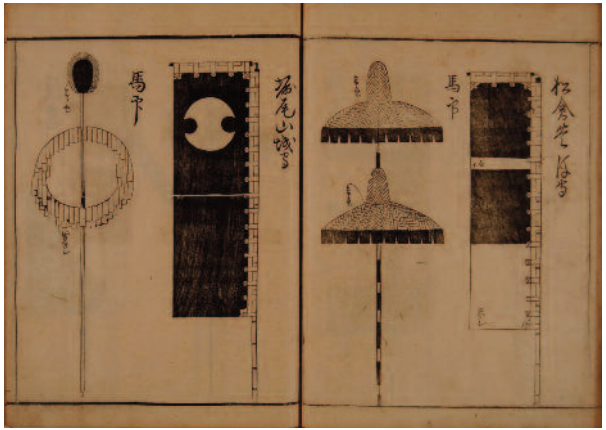
007　諸將旗旌圖　　原装原題簽附　寛永 14 年刊　極大 3 册　850,000

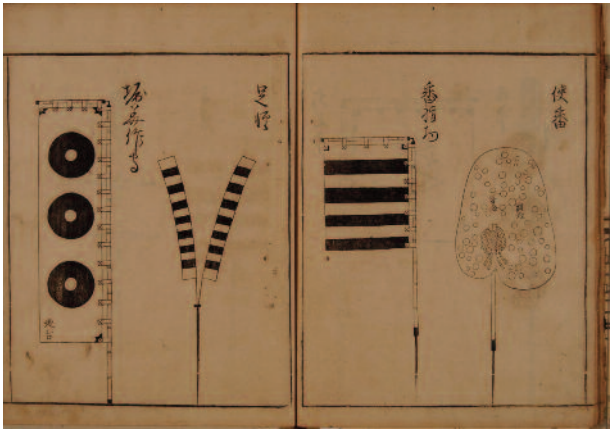
=天地人巻　愚齋周哲序　長門後學河野忘巷子春察書　御指物揃　34.8×25.7㎝という超大形本。寛永版という古版ながらなかなかの美本と思われます。帙入。

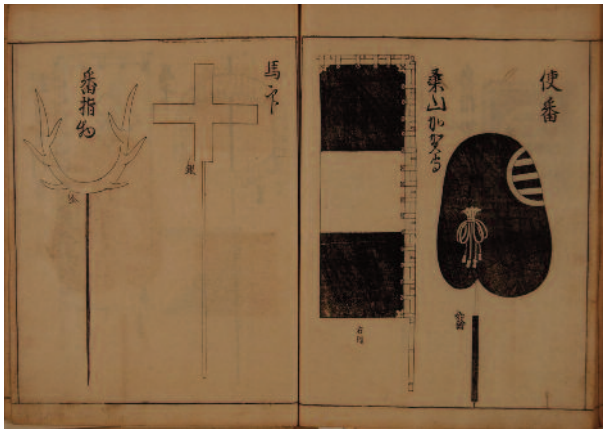
13 ページ参照。









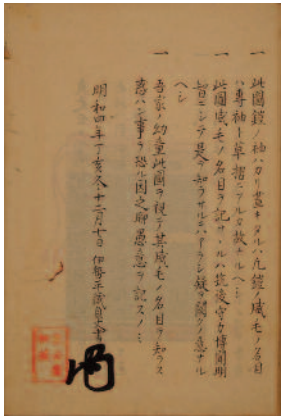


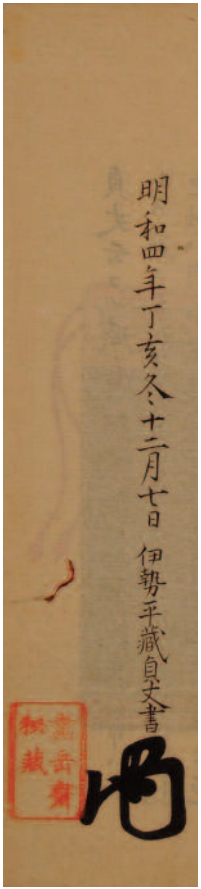
勘兵衛重通者至諸子百家之書皆
以鑄梓吁其巧倖哉今也指物擔上
中下三卷新欲鑄於梓而來問其槧
否願乞一言以託不朽予披卷見之
實武人常宜見知之書也其如何五
十餘年而遂上從天下之聖君下至
近臣与諸侯自家甲冑旌旗并騎卒
指物胞衣尽以畧之圖之苟臨戰場
至某旗赤某幟白紅紫金銀彩色可
坐知之道也嗚呼不知記者名為遺
憾然其人讓退以不著其名耶見此
書則英雄之美意如指掌也誠天下
雖安不忘戰之意也愚也淺聞薄智
欲議之古本間強雖不免蕪石白承
之誼猝磨鈍鐫朽書以為跋
寛永十四稔星集丁丑孟夏初吉
長門後學河野忘巷工春衆書

008　古鎧威毛　　大１冊　品切れ

=伊勢貞丈自筆本　末尾「明和四年丁亥冬十二月七日伊勢平藏貞丈／花押」　少虫損　帙入

全部で 17 圖ある「威」圖は極彩色に描かれ非常に美しい。『國書』によれば宮内庁書陵部に（以下「宮書」）に唯一傳存する。實際に「宮書」を實見してきましたが、表紙には「松岡兵書」とシールが貼付され、巻首には「松岡文庫」とその左に「安齋」の藏書印がありました。「安齋」は伊勢貞丈の號にしてその藏書印ですが、それは筆寫によるものでした。また奥書には「右一帖伊勢氏所蔵を以うつし置／今表荘を加え畢ぬ／文化五年七月／松岡清助丹治辰方（花押）」と記されので江戸後期に高倉流の故實家松岡清助の自筆による寫本であることがわかります。本の大きさはほぼ同じでしたが、「宮書」本は雲母紙の帖仕立。威しの順序に違いはありませんでしたが、帖仕立ての體裁を利用して中央に大きく描かれ威しの横に記される解説は巻末に纏めて集録されています。「宮書」も極めて細密に描かれてはいましたが、彩色など全てにおいて本書に劣り、また模様や解説についても若干の差異があります。「宮書」本の松岡の奥書の前に本書の奥書と花押が眞似て寫してあるので本書を筆寫したと考えられます。花押の横の藏書印が氣になります。「畫岳齋／秘藏」とありますが、一字違いで「畫學齋」であれば谷文晁なのです。15 ページ参照。





小櫻威

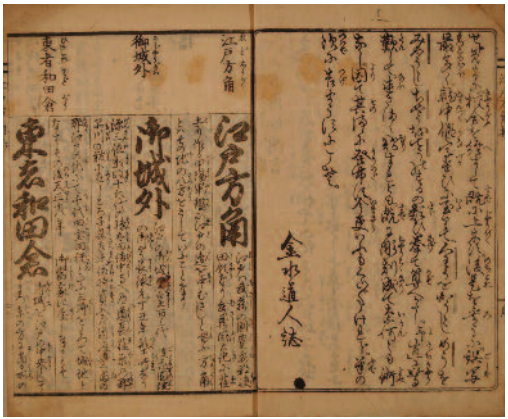
組威

逆澤瀉威

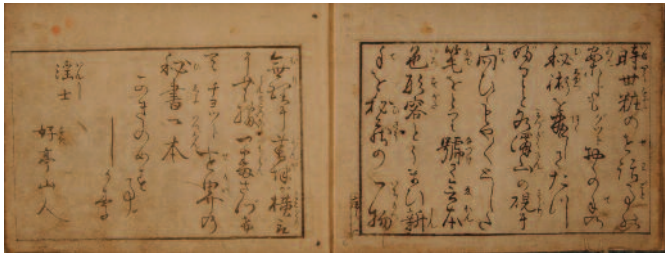
009　古今奇譚　蜑捨草　　題簽欠　享和３年正月刊　　半５册　250,000

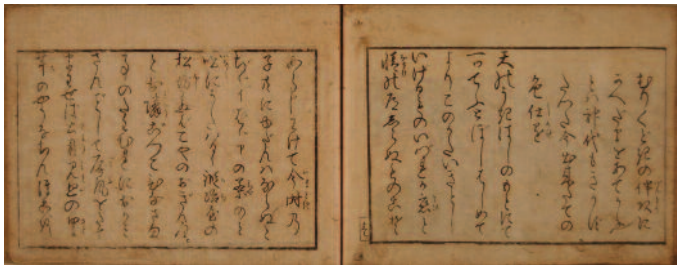
=巻１・２・４・５上・５下（巻３欠）　初期江戸怪談讀本　山家人廣住作　葛飾北斎画　菅原長根序　山家人跋　美本

010　画本古文孝経　上巻　　簽　刷並み　天保５年序　　半１冊　15,000
　　=葛飾北齋画　高井蘭山序　東都書肆嵩山房梓
011　江戸方角愚注抄　　簽　僅か染み　無刊記　江戸末期刊　　中１冊　5,000
　　=金水道人自序



012　会本色形容　　簽欠　帙入　江戸後期刊　　中横本１冊　品切れ
　　=二代歌麿画　好亭山人序　彩色刷艶本　画 17 圖　本文 17 丁





013　忠孝道乃栞　　前後編各上下巻揃　　簽　美本　文政６　　半４冊　45,000
　　=浪速　思恩堂非得作　丹羽桃溪画

014　天保己亥　役者外題撰　京大坂　上巻　　簽　繪入　天保刊　　小横１冊　10,000

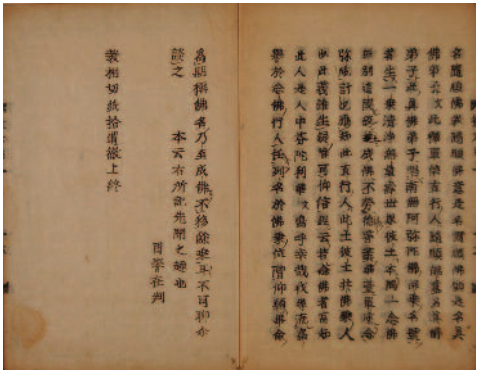
015　士道要論　　簽　美本　造士舘刷印　嘉永３年刊　　半１冊　8,500
　　=斎藤徳蔵著　安中藩甘雨亭蔵版

016　日本唐天竺并諸國噺　摺外題　袋附５丁もの　江戸末刊　　半１冊　20,000

017　南総里見八犬傳　全９輯大揃　　簽　活字版　明18　半42冊　品切れ
　　＝曲亭馬琴著　東京稗史出版社

018　重扇五十三驛　５巻　簽　東都梅菊翁著　万延元年刊　　半５冊　品切れ
　　＝歌川影松画　巻１やや虫、以下少虫

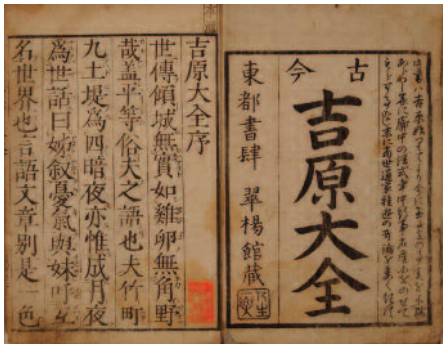
019　教相切紙拾遺徹　上巻（下巻）欠　　原装釘　寛永中刊　　大１册　60,000
　　=古活字版　版心「徹六通上一〜十三」　書き題簽



教相切紙拾遺徹上一　南
南無阿弥陀佛　往生之業念佛為先
結前生後之事
徹上云此故本選擇集之題下雖有三重念佛之義俱非觀念之念佛但是口稱念佛也故題次文初置南無阿弥陀佛者即是結前生後也結前者所謂結前題下三義俱是稱名也生後者所謂為顕此集所列之一一章段亦皆稱名之義也上相傳云十六章段一一皆南無阿弥

020　子孫繁昌記　簽欠　聽松軒序　和泉屋金右衛門　天明元年序　　中横１冊　品切れ

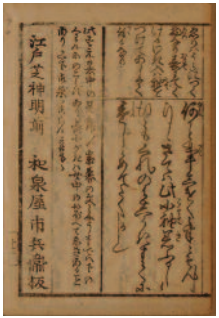
021　古今　吉原大全　巻之一（全五巻の内）　　簽　明和５年刊　　中１冊　品切れ
=醉郷散人撰　鈴木春信画　翠楊館蔵　版心少削れ



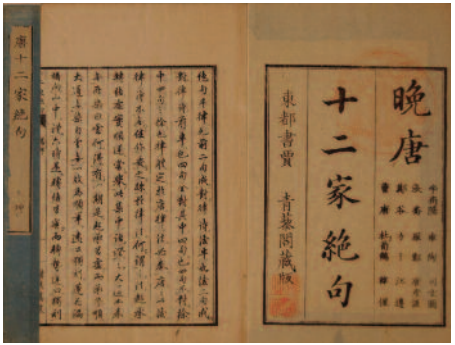
022　萬物圖考　爲齋畫式　上下巻　　寶集堂梓　元治元秋序　　半２册　品切れ
　　=楊大昕・楊江（柳河春三）序　下巻（第二帙）表紙紙破れ袋附　見返し欠
　　當代随一の洋學者柳河春三は繪画でも一家を成してもいいほどの腕前があった。
　　廣重との共著もあり、自らの著書に插繪を描いているときは楊大昕の他に又玄齋
　　南可の號を使う塲合が多い。例えば『新編異國料理』や『商賣往來繪字引』など。
023　孝經　　題簽欠　菱川清春画　洛士東籬主人編書　嘉永３　袖珍豆本１册　品切れ

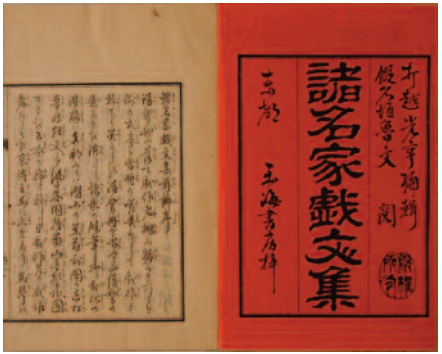
024　飜刻　通俗漢楚軍談　４巻　簽　袋附　松川半山畫　明 15　　半４冊　15,000
　　=瀬戸活版書房藏版
025　新板大字　さいこく　　簽　巻首丹緑着彩　無刊享保頃　　極小１冊　品切れ
026　道哥心乃寫　　簽　袋附　法の弘麿序　文政 10 仲秋序　　中１冊　20,000

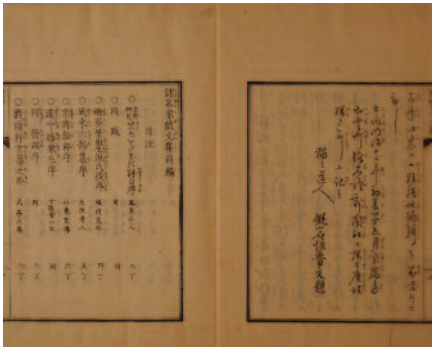
027　女用文艶詞　上巻　　北尾重政　和泉屋市兵衛板　無刊記　　小１册　10,000
028　西銘參考　簽　近江／淺見安正著　安中氏板倉氏開雕　無刊　　中１册　5,000
　　＝甘雨亭叢書第二集第１巻
029　山水澂　　簽欠　少し汚れ　雲室上人縮摹　文政６年初冬刊　　中１册　15,000
　　＝東都層山堂梓　書林／須原屋茂兵衛・秋田屋太右エ門板



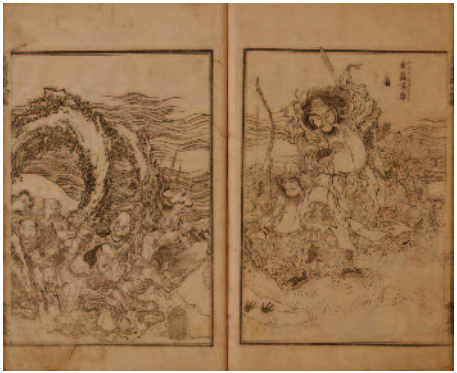
030　國盡　　簽欠　鱗形屋孫兵衛原版　吉田屋小吉板　文政２　　中１册　品切れ
　　=海後宗臣舊藏本
031　晩唐十二家絶句　乾坤　簽　東都書賈／青藜閣藏　弘化２刊　　半２册　10,000
032　諸名家戯文集　簽　静岡縣／打越光亨編版　玉海書房　明12　　半１册　35,000
　　=猫々道人／假名垣魯文閲　風來山人・福内鬼外・天竺老人・山東京傳・十返舍
　　一九・式亭三馬・八文舍自笑・溪齋・松亭・丈紀他





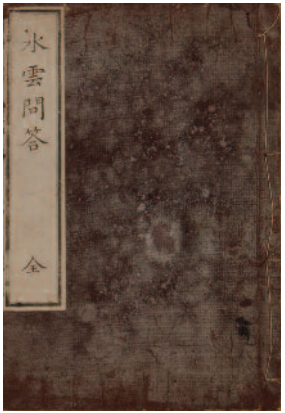


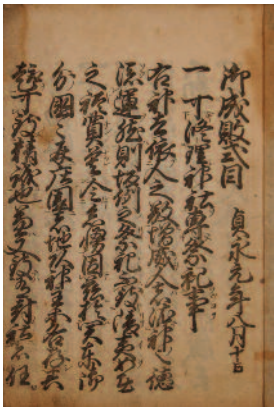
033　萬物圖解　爲齋畫式　初帙　簽　楊大昕（柳河春三）元治元　　序半１册　20,000
　　=一部着彩　末尾に寶集堂藏版目録
034　善惡　迷所圖會　簽　善惡道中記第二編　　頂恩堂　嘉永刊　　中１册　20,000
　　=一筆庵主人戯誌

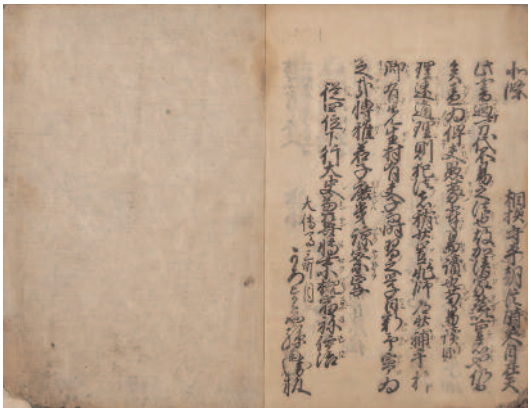


035　暁齋略畫　　簽欠　末尾汚れ　猩々暁齋略筆　山静堂　明 14　　半 1 冊　15,000
036　道外節用　小野蕙譫字盡　簽欠見返欠　紙屋利助　文化 3　　中 1 冊　品切れ
　　=游戯堂／式亭三馬著　題簽八分剥落　染み

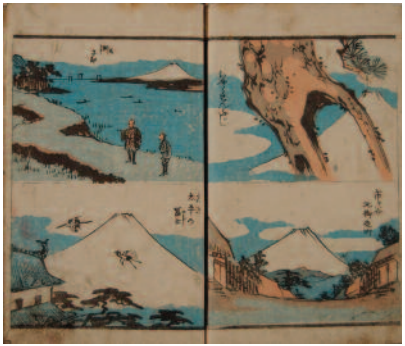
037　水雲問荅　　簽　河田興述　甘雨亭蔵板　嘉永６年新鐫　　半１冊　15,000
038　御成敗式目　簽　大傳馬三町目うろこかたや孫兵衛　無刊　　大１冊　10,000

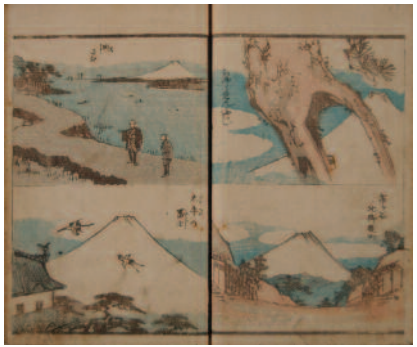






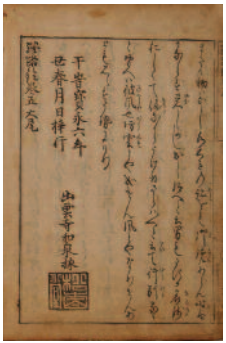
039　北齋画譜　簽　東都／吉田屋文三郎板　無刊記　江戸末期刊　　中１冊　25,000
=鈍亭魯文／安政４年序





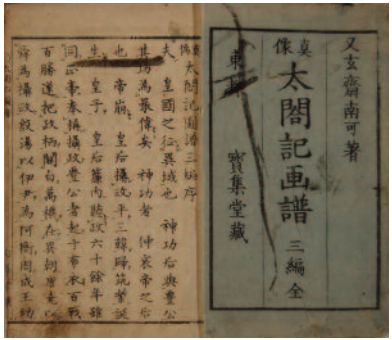
040　北齋画譜　　簽　東京書林／吉田屋文三郎板　明治初期刊　　中１冊　15,000
=鈍亭魯文／安政４年序　江戸版と較べ刷りも甘く色も淡い更に數丁が省かれる。ただし江戸版に無い丁もある。

041　内路乃幕は以よぶし　少墨　一度開飯盛画作　江戸末期刊　　中１冊　品切れ
042　東海道驛路之鈴　巻５（大尾）簽　出雲寺和泉掾　寶永６　　半１冊　15,000
043　文晁畫譜　上下巻　簽　歸耕堂主人序　岩本板　文久２序　　半２冊　品切れ



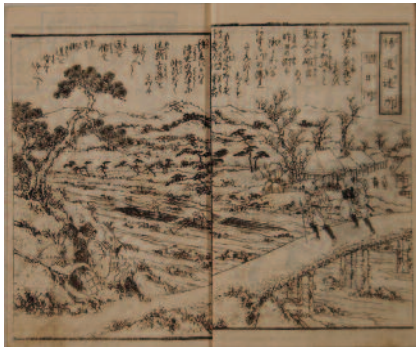
044　真像　太閤記画譜　第貳編　簽　印切り取り染み　無刊記　　中１册　品切れ
=又玄齋南可（柳河春三）著　寶集堂

045　真像　太閤記画譜　第三編　　簽欠　巻首少墨　無刊記　　中１册　品切れ
=又玄齋南可（柳河春三）著　寶集堂



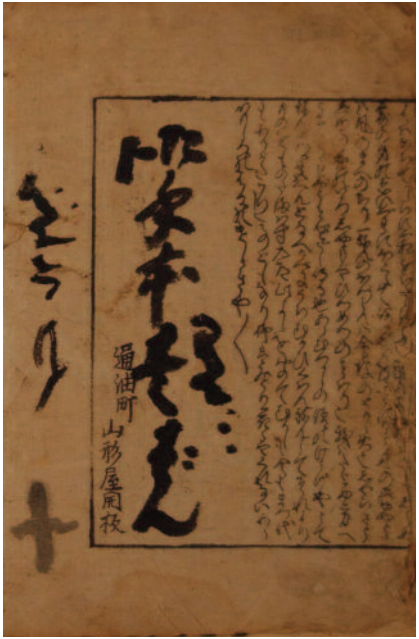
046　雪寶和尚百則頌古　簽　柳枝軒　小川多左衛門　寛政４刊　　小１册　10,000

047　善惡迷所圖會　簽欠　美本早印　一筆菴主人戯序　弘化３　　中１册　20,000
048　繪本顔盡　　表紙巻首少傷み　曉老夫序　辰の如月中旬序　　中１册　品切れ
　　=初編～廿一編揃　書林兼草紙屋／塩屋喜兵衛板
049　其名も高橋毒婦の小傳　東京竒聞　第７編上中下巻　明12　　中３册　品切れ
　　=岡本俊雄閲　岡本勘造綴　櫻澤房種畫



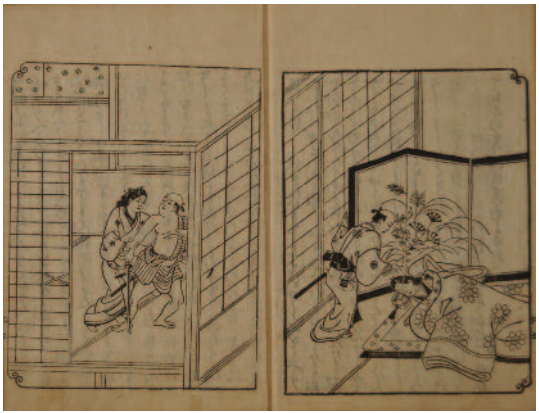
050　題不明假名草子　　通油町／山形屋開板　無刊記　　中１冊　品切れ

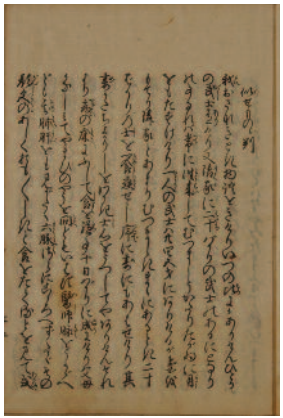
=丹表紙。原表紙。題簽欠。首尾他に墨つき。板元の山形屋は浄瑠璃本屋の山形屋市郎衛門であろう。一説に延寶から元禄まで續いた本屋と云う。内容は九州の筑前、嬉野邊りを舞台とした物語で冒頭に菊池宰相時ただと申人はとある。全部22丁の内、第９丁表と第16丁表を欠落する。内題無し、柱題も無しという體裁。版式もあまり例を見ないものと思われる。舊藏者が全文を解讀した私家版限定１部の原寸影印本を附す。帙入。36・37ページ参照。



051　新版諏訪瑞夢　四天王權興　５巻合本　　無刊記　　中１册　品切れ
=黒本。鳥居清滿画　原表紙。題簽欠。版心「四てんわう」。殘存 22 丁。3 丁欠損。手擦れやや傷み。帙入。

052　つほのいしふみ　簽　美本　無刊記　元禄 11 年刊（國書）　　半 1 冊　85,000
　　=内題「似せ者の判」





053　八宗起源　釋迦實録　5巻　簽　鈴亭谷峩譯　嘉永7序刊　　半5册　40,000
=橋本玉蘭齋畫圖　青雲堂求版

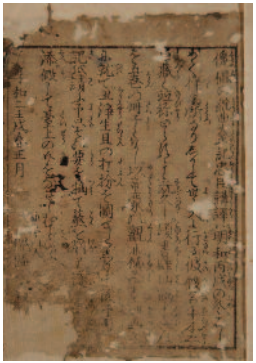
054　芥舟學畫編　4巻　簽　少虫　琴書閣藏板　乾隆46年鐫　　半4册　25,000
=呉興沈宗騫熙遠父述　九方山人跋　江戸末期刊

055　敵討女鉢木　原装簽欠　虫傷み　市二三戯作　文化６序　　中１册　20,000
　　=勝春扇画

056

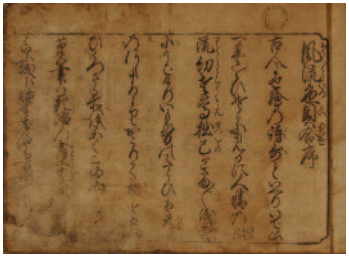
056　相馬内裡後雛棚　前編　　曲亭馬琴作　文化８年發販　　中１册　15,000

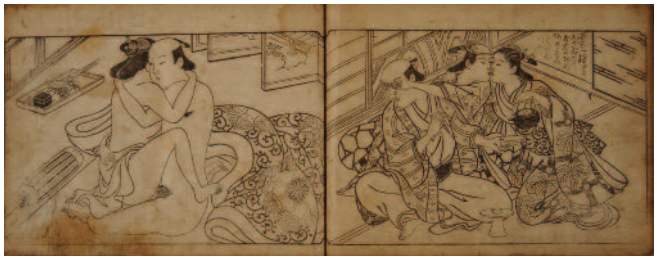
057　太平記忠臣講釋　　合本 25 丁　改装裏打　享和 2 年序　　中 1 冊　品切れ
　　=黄表紙　曲亭馬琴作　豐國画



058　諸國奇談　西遊記續篇　5 巻　　簽　橘南谿著　無刊記　　半 5 冊　25,000

059　風流色貝合　　原装やや剥がれ　序文少削れ　22 丁　西川祐信画　寶永八序　　半横 1 冊　品切れ





060　東海道中　膝栗毛（端本）　　十返舎一九著　享和２年序　　中 10 冊　品切れ
=初編・三編上・三編下・四編上・四編下・五編上・五編下・五編追加・六編上・七編上　内題簽附は６冊

061　東海道中　膝栗毛（端本）　　簽　十返舎一九著　無刊記　　中 15 冊　50,000

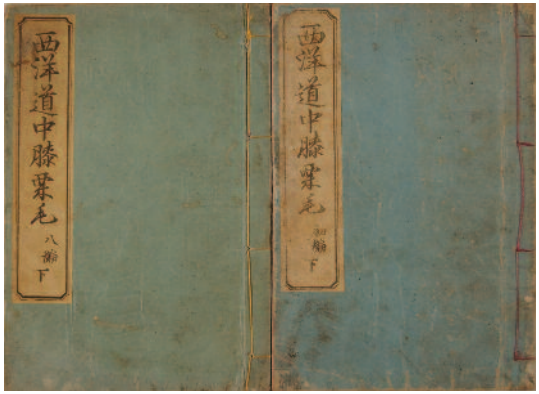
=初編中・二編中・下・三編中・下・四編上・下・五編上・下・六編上・下・八編下・九編上・下・十編上　初編にやや虫

内題「滑稽五十三駅」

062　續膝栗毛バラ賣り　　簽　十返舍一九著　文政２年序

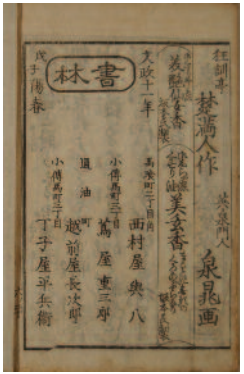
=~~二編下~~・十編上・十一編下・十二編上・~~十二編中~~　　各１册　5,000

063　奥羽道中膝栗毛　５篇各上中下巻揃　　簽　明 14　　中 15 冊　60,000
=十返舍一九著　江嶋伊兵衛出版　内４冊題簽欠　初篇上巻巻首少虫



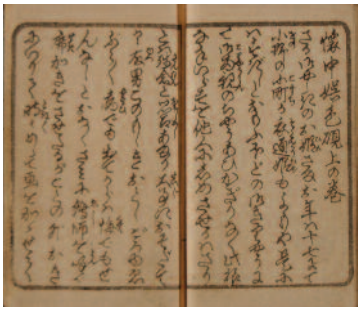
064　西洋道中膝栗毛（端本）　　假名垣魯文著　芳幾画　明３～４年　　中 14 冊　品切れ
=初編下・二編上下・三編上下・四編下・七編下・八編上下・九編上下・十編上下・十一編下　題簽附は６冊　２編上下に傷み

065　膝栗毛五編追加　　簽　十返舎一九著　文化３年序　　中１册　品切れ
066　佐野義勇傳　上下巻　永嶋辰五郎著　無刊　明治初期刊　　中２册　品切れ



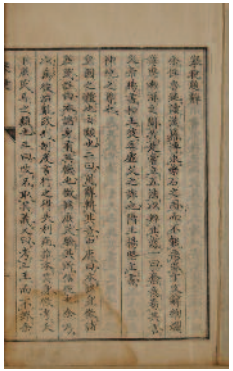
067　永代かがみ　後篇上中下巻　簽　楚満人補綴　文政 11 刊　　中３册　20,000
　　=内題「紀文實傳　長者永代鑑」巻４～６　英泉門人泉晁画

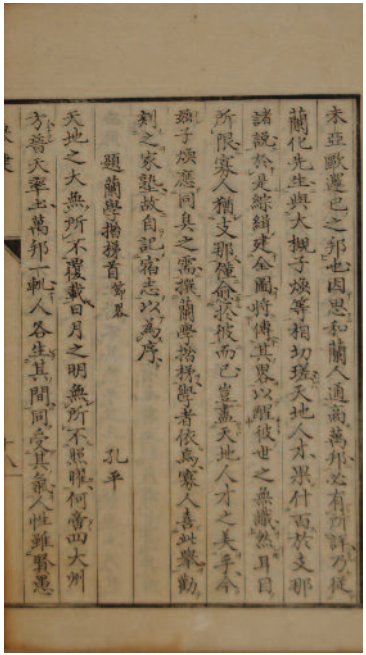
068　金魚傳　５編　簽（第４編七分剥落）後摺　明治初期版　　中５冊　30,000
=曲亭馬琴作　歌川國安画　和泉屋市兵衛他發行　初編に赤い染み

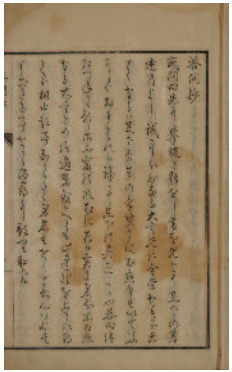


069　懐中娯色硯上の巻　豆艶本 9×6㎝　好色外史序　嘉永序　　極小１冊　品切れ

070　擧睫　題簽欠　越後加茂宮本院藏版　文政５年10月刻成　　大１册　20,000
=江戸谷中／彫工／朝倉喜三郎　「蘭學階梯序」「題蘭學階梯首節畧」他

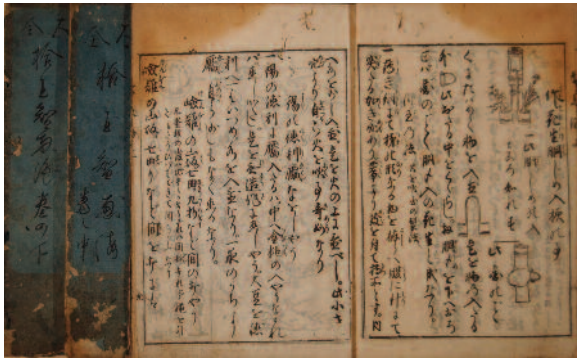


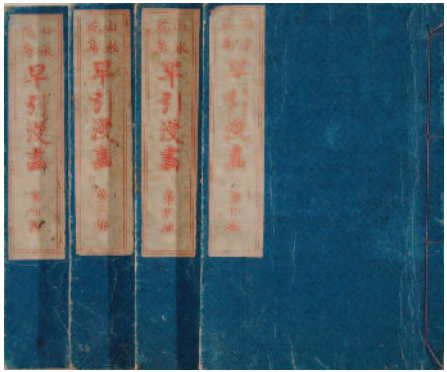


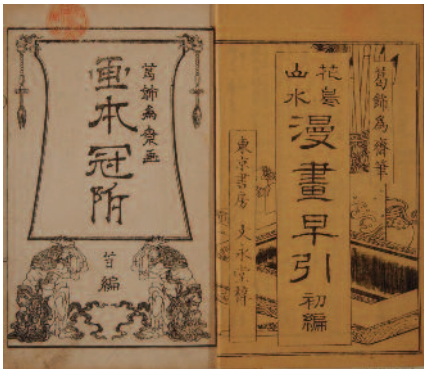


071　荅問鈔　簽　　越後加茂宮本院藏版　文政５年10月刻成　　大１册　20,000
=江戸谷中／彫工／朝倉喜三郎

072　拾玉智恵海　上中下巻　簽欠　少虫　箸屋勘兵衛　無刊　　半３冊　10,000







073　山水花鳥　早引漫画　全四編　簽　葛飾爲齋筆　明２　　中４冊　25,000
　　=安達吟光編　文永堂　東京書肆／大島屋／武田傳右衛門

074　戯氣縁起　　蒸け傷み巻末欠字　西郊田樂子序　無刊記　　中１冊　10,000
075　ちんてき問答　　簽　美本　錦森堂森屋治兵衛　文政 13　　中１冊　15,000

076　おたこ姫物語（仮題）　　嘉永五年霜月十五日寫　　極長１巻　品切れ

=探元齋正筆。巻頭にやや不備があるものの時代古表装。高 21㎝、長さ約 10 メートル強。

たこの入道に嫁入りのおたこ姫がさらわれるが家來が救出。しかし姫は歓待されていて、和解して姫が子たこを授かり至る戯画物語。